

～新宿駅周辺地区協議会～

第2回暮らしと住まいを考える分科会 概要

平成24年6月12日(火) 14時～
角筈特別出張所2階会議室

出席 : 委員7名 事務局3名

1 リーダーより

会議に先立ってリーダーより挨拶がありました。

2 議題

(1) 旧都営角筈アパート跡地活用プロジェクトについて

協議に入る前に事務局よりこれまでの経過説明がありました。(別紙「旧都営角筈アパート跡地活用プロジェクトについて」参照)

続いて、平成24年5月6日、5月27日に開催されました「跡地利用を考える会」について、出席した委員と廣川会長から次のような報告がありました。

<平成24年5月6日跡地利用を考える会(以下考える会)>

角筈地域センター7階会議室にて63名参加。この会はこれまでの考える会を大きく上回る参加人数で、広く地域の方、また子ども園や小学校PTAなど幅広い年代の参加となった。これまでの経緯と提案書の説明をした。

提案書の活用について活発な意見交換や、提案書から離れてアンケートを取っては、などこれまでの経緯や提案書が周知されていないことによる意見も出たりした。

既に4月20日の地区協議会全体会において、旧都営角筈アパート跡地活用については地区協議会のプロジェクトにしては、という提案があり了承されていたので、会の終了後、出席の63名の中から中心になって活動できる人を募った。

この会の名称を「都営住宅跡地活用プロジェクト」とした。新しい施設によって地域の交流や西新宿へ人の流れを作るという提案書の目的や地域の熱意を区議や都議や副知事、または都知事に伝えようと署名運動を行うという結論になった。次回(5月27日)はその人たちで集まることになった。署名をどのようにやるかは5月27日に話し合うということで閉会した。

<平成24年5月27日跡地利用を考える会(以下考える会)>

角三会館にて23名参加。活発な意見交換が行われた。署名について、経験者から取りまとめや管理が難しいという意見があったり、予算は?文面は?回収方法は?などのアイデアやそれに対する問題点も上がった。

結論として署名は難しいのでは、となった。他に効果的な方法として、直接議員に働きかける、NHKに取材してもらう、などが上がったが、次回までの宿題となった。回を重ねる毎に、提案書の内容(素晴らしさ)が理解できるようになった、という出席者も増えてきている。また、再度地域住民にアンケートをとってはという意見もあった。

<廣川会長より報告>

この跡地活用について、廣川会長から新宿区町会連合会会長に話を持ち掛けたところ、6月5日の区町連で話すこととなった。その結果、新宿区町会連合会で協力（署名運動）しようとなった。署名の文面等については新宿区町会連合会で考えるという。このことについては地区協議会の全体会でも諮りながらすすめていかなくてはと考えている。

以上の報告を踏まえて委員や事務局から様々な意見が出ました。

委員：署名とアンケートは方向性が違うと思う。今の都営住宅跡地活用プロジェクトにおける課題は、跡地を売却させないということで署名を取り、跡地をどのように活用させたいかのアンケートだと思うので、どこを押さえたのかがわからない。焦点がぼやけてきている。方向性をきめないといけない。

事務局：地区協議会で署名活動はできないが、地域の課題をどのように解決していくかや跡地に何を作るか、アンケート結果をどのように活かしていくかを考えていくという活動になる。地区協議会でできる役割は何かを今日決めていただければと思う。

委員：署名で売却しないと盤石にした上でプロジェクトで活用方法を話し合うといったやり方になるか。

事務局：署名がメインであれば、地区協とは分けて考える会などでやっていただきたい。

委員：（町会で署名することになった場合）主旨は理解しているが、西新宿エリアの町会には地元に住んでいないメンバーもいる。実際に署名する段になって熱意がどの程度あるか疑問。町会での署名を当てにするのも危険だろう。

事務局：（署名運動が区町連でやるとなれば）まず地元の町会で署名が集まった上で他の地区の町会でも署名というのが望ましいのでは。区町連での署名となったらそれぞれの町会がそれぞれの考えで取り組むことであって、この分科会で話し合っていくことではなくなると思う。今後この分科会出では跡地活用について署名以外にどのように取り組んでいくのかを考えていただきたい。

委員：全体会で、地区協議会全体のプロジェクトとして取り組むという提案があり了承されたが。

事務局：5月27日の考える会でもお話したが、プロジェクトは誰が、何を目的にどういう組織で活動するのかを決めてほしいのだが、まだ決まっていないのでプロジェクトとしては発足していない。プロジェクトを立ち上げるには詳細を決めて役員会に諮る。

委員：プロジェクトを立ち上げると決まった時点で分科会からは切り離さなくてはならないと思う。

事務局：プロジェクトの素案をこの分科会から提案しないと役員会にも諮れない。署名運動は地区協議会の活動としてはなじまない。

委員：プロジェクトを立ち上げたら地区協委員や地域の有志がメンバーになり町会も下支えをしながら上にあげていくような組織にしないとプロジェクトにならない。

委員：役員会で諮り了承されたらそこから委員編成されプロジェクトの詳細を決めればよいのか。

事務局・委員：素案は決めてからでないで役員会に諮れない。

委員：提案書を見た人はアンケートに逆戻りする。この地域にこんな施設がほしいといった要望は過去二回も断られている。提案書は箱ものではなくソフトもハードも一緒になっている。

委員：提案書にはアンケートだけではなく、西新宿の様々な問題を解決しようと盛り込まれている。だからこの地域の地区協議会にふさわしいと思っている。

委員：提案書作成にあたっては、アンケートも取り込みながら皆さんの意見を聞いた。その中で形にできることを取捨選択した。

事務局：提案書を見ても地域の方には消化しきれていないのでは。

委員：5月27日の考える会では、提案書をわかりやすくするために模型を造ってほしいという意見も出た。

委員：模型を見ると、それに引きずられる。あくまでも案として見ることができないので難しい。

事務局：模型も既成事実のようになってしまうため地区協の予算を使うのは難しい。

委員：跡地が小学校の近くにあるということで世代間交流の場には適していると思う。区からは区内の他の施設を利用すればと言われたが、それは私たちの望んでいるものではない。

委員：区で断られたのなら、都に提案するために区は協力してほしいと思う。区からこの地域にあるものの利用方法を提案してもらえれば地域交流・（親・子・孫社会）世代間交流は達成できる。

委員：プロジェクトは地域住民の力を使ってこの地域を活性化しようというのが目的でもある。

委員：行政が跡地の計画を立てる前に地域ではこういった要望がある、ということを示して、売却を阻止できたというのが第一の目的だった。住宅展示場としてさらに5年間利用してもらおうのが現在最大の着地点だろう。地域住民の一番の理想は地域交流のための新しい地域センターを造れば、ということである。

委員：提案書を都に持って行っても福祉なのかまちづくりなのか、担当部署がないと言われてしまった。

委員：区に却下されたものはいくら話し合っても受け入れてもらえないと思う。それよりは地域の議員に話し都に売却しないよう働きかけてもらうという動きをしてもよいのでは。ここでいくら話し合いに時間を掛けてもだめなものはだめだろう。

委員：地域の協議会なのだから話し合うことはよいのでは。

委員：地域の願望をかなえてもらうために議員に頼むのは悪いことではないと思う。

委員：プロジェクトでもなく地区協議会からは切り離して、あとは町会長に頼むなどしないと地区協議会では課題が大きすぎるのでは。

事務局：地区協で提案できる素材は作り上げたので、活動自体は色々な制約がある地区協から切り離したほうがやりやすいのではと思う。

委員：都は跡地をどうしたいと考えているのか。

委員：都の内部でも活用方法を募ったがどこも手を挙げなかったらしい。新宿区なら半額にするとのこと。提案書は漠然としていて都のどこの部署に持っていけばいいのか思い当たらない。

委員：住宅展示場としての利用期限まで時間がないので、とりあえず売却阻止の意思を明確にして活動し、利用期限が切れる2年後には活用方法を提案できるように練り上げた方がよいのではないか。

委員：地元のために活用してほしいという意思は明確に。

委員：これまで考える会から議員に声を掛けていなかった。提案書を見ても何がしたいか伝わりにくかったが、これからは売却しないでほしいということを中心に大きな目的としていきたい。

委員：売却されたらどうしようもない。議員からもこうしてはという考え方も出てくるかも。

<まとめ>

都営住宅跡地活用プロジェクトは売却しない方向で活動し、その際は地区協からも分科会からも切り離して、別活動として続けていく。分科会としてはプロジェクトの素案の話、活用方法の協議はしていく。今後は「新宿ファーストウエスト屋上緑地活用について」を課題として継続していく。

(2) 新宿ファーストウエスト屋上緑地活用について

委員から経緯の説明がありました。

「西新宿一丁目淀橋第二小学校跡地に建つ新宿ファーストウエストの屋上緑地化されていて、管理者から西新宿一丁目町会に活用の打診がありました。町会では活用策が上がりませんでしたので、この分科会で活用方法を考えることになりました。4月12日には現地見学をし、養蜂や福羽いちご、芋を植えてこどもたちに芋ほり体験などのアイデアが出ています。」

活用方法のプラン作りのために、まずは委員の有志3名が話し合いを進めています。この委員の一人が参考までに都市緑化技術開発機構というところで話を聞いてきました。ここでは屋上緑化について、防根シートを敷かないと植物の根が防水シートを突き破りいずれは水漏れが生じることや、藤やツタ類は建物の壁を破壊することもあるなどの話が参考になったようです。また、いちごはハウス栽培でないと食べられるものがないという話(委員調べ)から、農地として経費がどのくらい掛かるか、管理は誰がするのかという討議になりました。委員から様々な意見が出ました。

- 西新宿小学校は子どもの農業体験を早稲田大学の学生ボランティアに任せている。高齢者ではなく、こういった若いパワーに頼ってもよいのでは。
- この地域には工学院大学や文化服装学院もあるので、若い地域資産となる。
- 新宿ファーストウエストの所長に企画書を持ち込んで、予算などについて直接聞いてみては。
- 企画の中に地域住民はどのように関わるのか。

- 地域の高齢者や子どもはもちろん、地域の企業で働く方の親子向けに職場見学会をし続けて屋上で何かイベントをするなども考えたが、いずれにしてもビルに入館する際のセキュリティ問題をクリアするのが難しい。地域の方に役立つことを、とはいっても限界がある。
- 屋上菜園で取れたものを地域の方たちが販売するとか。
- 商品で売ろうとすると手を掛けたり経費も必要になる。販売は難しい。
- 地産地消で、地域の飲食店が食材に使う。
- 朝のラジオ体操の時に軽トラックで商品にならない野菜を売りに来ている業者がある。そうになったらよいのでは。
- 土の入れ替えや連作障害を考えると、やはり商業ベースに乗せるのは成り立たないだろう。
- お花や盆栽はよいかもしれない。
- 企画書、質問書を作成してファーストウエスト管理者に提出したい。
- この企画は地域の課題解決の視点から考えると、どういった課題になるのか。
- 地域の資産を活かす、ということだと思う。

経費については見学会の時やその他の機会に説明を受けた際に、人によって捉え方に違いがありました。

- 見学会の時の説明では屋上緑地の管理(メンテナンス)に年間100万円かかるということだったので、この経費をペイしていくのは大変だ。
- ファーストウエストから年間100万円の経費をもらえると捉えていた。
- 現在の経費が100万円なので、今後利用するとなるとそのくらいかかるという目安と捉えていた。
- 事務局が改めてファーストウエストに聞いたところ、経費のはっきりとした提示はなかった。メンテナンスをする業者の紹介やコストダウンの交渉はファーストウエストから働きかけてもらえるとのことではあった。
- では借りるにあたっては0円ということか。
- ビルを信託管理する側としては収益をあげなくてはならないと思うので、0円ということはないのでは。
- 管理会社は今の経費がかからなくなるならよいので、タダでお貸しするのでちゃんと管理してほしい、ということだったと思う。借りるのに有償か無償かを確認したほうがよいだろう。
- 企画書には、きちんと管理するための経費をご負担いただきたい旨を提示するつもりだ。
- もし農園を始めたら途中でやめられなくなる。いつでもやめられる態勢でいたほうがよい。

<まとめ>

委員が新宿ファーストウエストへ提出する企画書と質問書を作成し、次回(7月12日)の分科会の時に出席委員が確認する。

3 その他

(1) 他分科会の報告

◇地域交流分科会

- ・5月9日、6月6日分科会開催。「わいわい地域交流！」25号を7月1日発行に向けて最終校正中。
- ・6月4日新宿大通り商店街振興組合主催の花植え運動。委員の参加はなし。

◇安全安心分科会

- ・5月12日分科会開催。年間事業計画について協議。9月危機管理勉強会。11月普通救命救急講習会。2月本所防災館見学。3月(中央公園春まつりにおいて)自転車マナー講習会。

(2) 「区長と話そう ～しんじゅくトーク～」

日時： 6月28日(木) 19:00～

場所： 角筈地域センター8階レクリエーションホール

議題： 「地域の防災・減災について」

ぜひご出席ください。

(3) 分科会委員について

第4期から委員として参加されていた廣島さんがご都合でお辞めになりました。

(4) 今後のテーマについて

「暮らしと住まいを考える分科会」なので、今後も省エネなどといったテーマを考えていく。

4 次回会議日程

日時： 7月12日(木) 14時30分～16時30分

会場： 角筈特別出張所2階会議室

議題： 新宿ファーストウエスト屋上緑地の活用について

今後話し合っていきたいテーマがありましたら、
次回の分科会にお持ち寄りください。